

公の施設目標管理型評価書（新潟市北区文化会館）

施設名	新潟市北区文化会館		
管理者名	NKS・ハビスカとよさか共同事業体	指定期間	令和2年4月1日 ~ 令和7年3月31日
担当課	北区産業振興課		
所在地	新潟市北区東栄町1丁目1番5号		
根拠法令	—		
設置条例	新潟市北区文化会館条例		
施設概要	建築年 平成22年 敷地面積 24,520平方メートル 建築面積 4,427平方メートル 延床面積 4,708平方メートル 鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造・鉄筋コンクリート造）2階建 ホール（収容人員549人。ほか身障者スペース8席）、練習室4、楽屋3、保育室、会議室 他 敷地内施設 駐車場（314台）、園路、広場、植樹帯など		

施設設置目的

音楽、演劇等の鑑賞又は創作活動の機会を提供し、もって市民の芸術文化活動の発展に資するため、新潟市北区文化会館を設置する。

管理・運営に関する基本理念、方針等

- 文化事業
「市民の芸術文化活動の発展」という設置目的を果たすため、常に新鮮でかつ安定した文化事業の運営に努める。
【重点事項】
 - 優れた音楽、演劇等の舞台芸術の鑑賞機会の提供
 - 創作活動の機会の提供と参加の促進
 - 地域に根ざした文化の発信
 - 文化を通じたひとづくり・まちづくりによる賑わいの創出
- 施設運営
貸館に関する業務、ホール業務及び館内業務を行う。
【重点事項】
 - 貸館に関する業務の円滑化を図るため、利用希望者の使用条件等を勘案し、公の施設として公平性に配慮しつつ必要に応じた調整
 - 舞台機構設備、舞台照明設備、舞台音響設備等及び備品の日常点検並びに管理を行うとともに、それらの操作に精通し、利用者に対し安全で、高度なサービスを提供
 - 来館者の満足度を向上するため、様々なサービスの提供
- 施設管理
施設設備や舞台設備などの施設管理については、日常点検を行うなど、常に良好な状態及び性能を維持するとともに、効果的かつ効率的な管理を行う。
【重点事項】
 - 施設設備等の保守管理業務
 - 清掃業務等の環境維持管理業務
 - 効果的かつ効率的な管理運営執行体制の確保
 - 専門的職員の配置
 - 適切な執務体制
 - 人材育成の取組

令和4年度 目標管理型評価書

視 点	評価項目	評価指標	実績	評価	評価コメント
市 民	情報発信	情報誌の発行 年6回以上	HPにて随時情報発信 窓口配布催事案内情報誌を発行	A	指標を大幅に上回っている
	基準稼働率の達成	ホール・練習室等の稼働率 年間65%以上	ホール・練習室等の稼働率73%	A	指標を大幅に上回っている
	各種サービス別満足度	利用者アンケートで「満足」が90%以上	施設評価99% スタッフ評価99%	A	高い満足度を維持している
	苦情・要望に対する対応	苦情・要望には7営業日以内に回答	関係機関と連絡を取りながら即日から7営業日以内に対応	B	
	文化事業の実施	管理・運営に関する基本理念、方針等（1）文化事業の【重点事項】に記載の4項目に合致する指定管理文化事業を以下のとおり実施 事業数：12事業以上 事業費（支出ベース）：23,100千円以上	鑑賞事業9事業＋創造事業6事業＋普及育成事業5事業 ＋交流発信事業9事業＝合計年間29事業 総事業費は23,330千円となり、目標額に届いた。	B	
財 務	施設管理運営経費の削減	管理運営経費を年間79,505千円以下	新型コロナウイルスの流行も和らぎ、会館利用者数が増加した。電気、ガス共に平成31年度とコロナ禍前とほぼ同水準の使用量だったが、国や新潟市の光熱水費の支援を差し引いても電気ガス代が2割程度増加した。そのため管理運営経費が83,570千円と評価指標目標額をオーバーした。	C	利用者数がコロナ禍以前の水準に戻るのに合わせ、光熱費の使用量も以前の水準に戻ってきている。光熱費の高騰により、使用量が同じでも料金が増加しているため目標を達成できなかった。
	適正な財政運営	収支計画に基づく収入の確保及び経費の執行	収入予算104,666千円。収入決算106,443千円。支出予算104,666千円。支出決算106,902千円。文化事業収支については489千円の黒字となった。しかし管理運営費については光熱水費の高騰により903千円のマイナスとなった。	C	文化事業費は黒字だが、管理運営費は光熱費の高騰により赤字になり、合算すると赤字であった。

令和4年度 目標管理型評価書

視 点	評価項目	評価指標	実績	評価	評価コメント
業 務	安全管理責任者の配置と安全確保体制の確立	常時、危機管理責任者を配置し、防災・避難訓練を年2回以上実施	危機管理責任者：高坂館長 防火管理者：橋本副館長 6/16に緊急地震通報対応訓練、2/17、3/23の2回防災避難訓練を実施。日常的な危機管理意識訓練を励行させて、消防機関と情報交換するなど、適切な危機管理を実践している。	A	指標を大幅に上回っている
	事件・事故発生時の対応の適切さ	迅速な対応と、再発防止策の策定	4/24給水ポンプ異常、5/19PCウィルス感染、11/12火災報知器誤報などそれぞれの事件・事故等に迅速に対応した。	B	
	業務仕様書等に定める事項の遵守	その他業務仕様書等に定める事項の遵守	安全、節約等考慮しつつ、その他業務仕様書等に定める事項を遵守し、市民視点で仕様書に定められた事項以上の業務執行を心がけ実施した。	B	
人 材	職員研修の実施	外部・内部研修の実施 1人あたり2回以上	毎朝礼時のOJTの実施はもちろんの事、外部研修会への参加をした。新型コロナウイルス流行拡大に伴いオンラインでの研修会あり、職員が積極的に参加したことにより一人当たり3.2回の研修を受講することが出来た。	A	新型コロナウイルス感染症対策のオンライン研修などに職員が積極的に取り組むことで充実した研修を行うことができた。
	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	遵守に努め、労務環境関係の充実に努めた。適正な労務管理改善を図り、労働関係法令を遵守した。	B	

指 定 管 理 者 記 載 欄 (アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

令和4年度の文化事業については、これまで同様市民に喜ばれる音楽・演劇などの「鑑賞事業」、少年少女合唱団やジュニア吹奏楽団演奏会などの「創造事業」、区役所ロビーコンサート、区内小中学校巡回のアウトリーチなどの「普及育成事業」、北区内で活動する市民サークルの発表会である、北区音楽祭などの「交流発信事業」に取り組んだ。コロナウイルス感染禍のなか、全29事業を計画しすべてを実施することが出来た。

「鑑賞事業」では小林愛実ピアノリサイタルを9月に実施した。2021年ショパン国際ピアノコンクール第4位入賞後初の県内リサイタルということもあり入場率が97.1%と非常に好評であった。また、10月に実施した「谷村新司トーク&キャラバン ココロの学校」は9年ぶり2度目の開催で入場率が96.2%と今回も好評であった。「創造事業」では市民劇「もういちど会いたい～星空の約束～」に向けて、絵本「福島潟の妖怪たち」読み聞かせ会をビュー福島潟にて開催した。令和5年度に公演する市民劇に向けて、台本作成、市民オーディションを開催など準備を進めた。

施設運営においては、年間稼働率が73%と前年を大きく上回り、年間来館者数が68,000人を超え、コロナ感染禍前の令和元年の利用者数78,000人に迫る勢いであった。反面、昨今の光熱費高騰が想像以上に経費を圧迫し、指定管理費を大きく上回った。

施設管理においては、築13年を過ぎ、業者点検でのオーバーホールについての提案や、設備入替の提案が多くなってきている。その中で急を要するものが外壁のひび割れである。雨水の浸透が昨年以上に増加し、内壁にカビが発生している状況は放置すべきではない。一刻も早い処置を講じていただきたい。

清掃業務においては、感染予防に努め、各諸室の消毒作業を徹底した。今後は新型コロナウイルス感染症が5類相当に引き下げとなるが、利用者が安心して利用できるような衛生管理に取り組みたい。

総 合 評 価 (所 見)

新型コロナウイルス感染症の影響があるなかでも計画どおり全29事業を実施している。情報発信や稼働率、文化事業の実施数は目標を上回り、利用者数もコロナ禍以前の水準に戻りつつある。鑑賞事業では入場率の高い公演があり、多くの方から来館していただくきっかけとなっている。創造事業では、令和5年度に実施する市民劇に向け、読み聞かせ会、台本作成やオーディションなど積極的に準備に取り組んでいる。利用者アンケートでは、施設評価・スタッフ評価とも満足度が99%と高い水準を維持しており良好な施設運営に努めている。

光熱費の高騰に伴い管理運営費の増加や、施設の老朽化への対応など、厳しい施設運営が求められるが、新型コロナウイルス感染症予防対策に努め、利用者数、稼働率の増加に向け取り組んでいる。市民ニーズを捉え、地域の賑わい創出とともに魅力ある施設づくりを実現し、文化芸術活動の発展に貢献していただいた。